

支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		令和(元)年度
		人前など緊張する場でも、落ち着いて話したり、発表したりしよう
授業について	教科名等	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input checked="" type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他()
	単元・題材名	落ち着いて人前で話をしよう。
	授業の目標	・学校間交流の友達の前でも、落ち着いて自己紹介をする。
	学力の3要素	<input type="checkbox"/> 「知識及び技能」 <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」 <input checked="" type="checkbox"/> 「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実際	学校・学部・学年・人数	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない (4・5・6)年 (29)人
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input checked="" type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子供の困難さ	<input type="checkbox"/> 見ること <input type="checkbox"/> 聞くこと <input checked="" type="checkbox"/> 話すこと <input type="checkbox"/> 読むこと <input type="checkbox"/> 書くこと <input type="checkbox"/> 動くこと <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションをすること <input checked="" type="checkbox"/> 気持ちを表現すること <input checked="" type="checkbox"/> 落ち着くこと・集中すること <input type="checkbox"/> 概念(時間、大きさ等)を理解すること <input type="checkbox"/> 学習(計算、推論等)すること <input type="checkbox"/> その他 ・普段、教師と一対一なら言葉で自分の思いを伝えることができるが、当番など人前で話すときには緊張などから上手く話せなかったり、理解していてもわざと不適切な言葉を言ったりする。
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援(<input checked="" type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(<input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援(<input type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) D実態把握支援(<input type="checkbox"/> D1実態把握支援) ・苦手意識がある活動なので、無理をせずにiPadの機器を活用することで、自分から進んで自己紹介を行ってほしい。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	支援機器:iPad アプリケーション:えこみゅ  
授業展開	授業展開・支援の手立て	以前は当番の仕事に慣れてもらうため、英語で言ったり、身振りのみで進行したりすることも認めていたが、高学年の生活に慣れてきたため、言葉で朝の会を進行してほしいと考えた。能力はあるが、情緒的に難しい課題がある児童のため、今回iPadを活用して苦手な部分を補う形で使用することにした。 学校間交流では、通常学級の児童が来たときに各グループで自己紹介を行った。普段、教室では自分の名前を聞かれると言葉で伝えることができるが、いつもと違う雰囲気になるため名前を言うことは難しい。本人が自分の名前を言う音声を事前に「えこみゅ」で録音し、言葉で自己紹介が難しいときにiPadを使うことにした。自己紹介のときに自分からiPadを手に取り、操作して自分の名前や好きな物を伝えることができた。朝の会で使用したところ、言葉を発さずにiPadのみ操作して終わらせようとするが多かった。しかし、以前は当番で前に立つことを嫌がっていたが、今は自分からiPadを操作して取り組むようになってきた。 
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	人前で話すのが苦手などコミュニケーション面での課題があるため、無理にその部分を練習するのではなく、iPadを活用して苦手な部分を補うことで、抵抗なく自己紹介を行うことができた。好きなiPadを上手く活用したことで、意欲的に取り組むことができた。iPadを操作すれば事前に登録しておいた音声を出すことが分かって、面倒になって言葉を出さない姿も見られた。今後は毎回使用するのではなく、本人がiPadを要求したときのみ補助代替コミュニケーションツールとして利用していきたい。また無理のない範囲で、音声言語も一緒に出して朝の会を進行するように促していきたい。